未来わくわく館がんばっています

4月に東京理科大学の図書館棟に開館した「科学教育センター　未来わくわく館」では、小・中学生の希望者を集めて、土曜日に「科学教室」を行っています。

9月14日にあった、「小学校科学教室」の様子をのぞいてみました。

○設備整う館内で実験

当日は子どもたちが、土の中（関東ローム層、桜島火山灰、北海道・樽前山の火山灰の3種類）の鉱物を調べる組と、塩化ナトリウムなど8種類の金属を燃焼させたときの色を調べる組に分かれ、実験していました。

○土の中の鉱物を調べる

私たちの住む関東平野は、関東ローム層（赤城山など、近くの火山の火山灰が降り積もってできた層）の上にあります。そこに堆積している鉱物を調べ、また、桜島、樽前山の火山灰と比べることで、より理解を深めます。（左上写真）

○金属を燃やした時の色を調べる

金属をアルコールに溶かした溶液に火を付けると、それぞれの金属特有の色が出ます。水溶液や燃える時の色、燃える様子などを金属ごとに記録を取ります。

多くの小学校から児童が集まっています

この小学校科学教室には、区内の40以上の小学校から、約120人が参加しています。同じ組の中でも、いくつかの班に分かれて実験していましたが、普段は違う学校の児童どうしが、協力して実験をする姿に、好感がもてました。

運営する方々の館や教育に対する思いは、どのようなものでしょうか。

今回、科学教室の運営をされている羽山先生と、未来わくわく館の運営管理業務をされている、豊田係長にお話を伺いました。

羽山先生　科学教室は、できれば希望する児童全員を受け入れてあげたいのですが、どうしても設備の都合で、今の募集人数が限界になっています。ただ、児童が参加していない学校もあるので、来年は全小学校から応募が来るよう、こちらも努力したいと思います。

区立学校の教員の中で希望する方に、講師をしていただいていますが、（左写真）児童が来る1時間も前（8時30分ごろ）から打ち合わせを始めます。朝の早さは学校での勤務日とほとんど変わりません。それでも、理科を教えたいという思いを持つ教員が教えることで、児童にも良い影響が出ていると思います。

ここに来る児童の出席率が高いのは嬉しいことです。また、児童の「理科離れ」が言われていますが、参加児童は、みんな理科に対する興味・関心が高く、意欲的に取り組んでいます。

将来は、葛飾の学校から東京理科大学に入って、科学者を目指す子が出てきてほしいと思います。

豊田係長　未来わくわく館には、平日は約150人、休日は約300人の方に来ていただいていて、月にすると5千人ほどになります。おかげさまで9月6日には、開館以来3万人目のお客様を迎えることができました。

館内で行うイベントの詳細については、「広報かつしか」で随時お知らせしますので、科学の不思議を体験できる「未来わくわく館」にぜひお越しください。

この取材は土曜日の午前中に行いましたが、私が館を後にする時間帯にも、館内で水や光、空気に関する様々な体験や実験ができる展示室へ訪れる方が多く見られました。

皆さんもぜひ、「未来わくわく館」においでください。

庶務課　☎(5654)8449